

実社会対応プログラム(研究テーマ公募型研究テーマ)

- ◆課題:「人口減少社会における多様な文化の共生をめざすコミュニティの再構築」
- ◆研究テーマ:「移住者を惹きつける中山間地域の地域資本を解き明かす:山梨県での学際的地域協働研究」

研究期間:H30.10~2021.9
委託費総額:13,602千円

<研究代表者>

高橋康夫:公益財団法人地球環境戦略研究機関/研究員



<専門分野>生態学、保全生物学、ランドスケープ研究他

<Webページ>

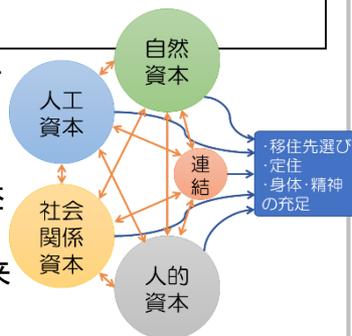
<https://pub.iges.or.jp/staff/takahashi-yasuo>

<研究目的・概要>

中山間地域で進む人口減少と、都市住民の地方移住への高い関心。移住者の決して高くない定着率、旧住民との隔絶等の課題も。

移住の誘因となる地域資本を解明し、移住者を受け入れて地域資本を活かす持続可能な地域システムデザインのあり方を提案する。

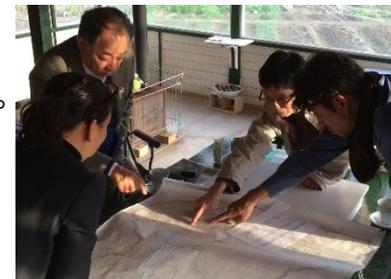
- ・研究サイト:山梨県道志村、北杜市、身延町
- ・地域資本を自然資本、人工資本、社会関係資本、人的資本の4資本で捉えてデータ化
- ・4資本とその相互作用が地域の人々の便益や福利に及ぼす影響を評価
- ・ジオデザインにより、住民参加で地域の将来像をシミュレーション



旧住民に移住者が加わりつつコミュニティが再構築されていく中で、地域の人間福利や自律性、持続可能性を高める地域システムのあり方を見出す。

<研究計画の特徴>

- ・中山間地域の魅力を、社会科学と地理情報科学を統合した手法により、4資本とその相互作用から捉えて実証的に解明する。
- ・社会関係資本と人的資本が移住定住のプロセスに果たす役割を解明する。
- ・都市からの移住者に訴求する地域の魅力を再発見、その磨き方を示す。
- ・研究サイトの実務者と密に連携し、地域のリアリティに応えつつ大局的な将来のあり方を協働でデザインする。



<目標とする研究成果>

(1) 移住の誘因となる地域資本を解明

地域資本を構成する4資本の項目と指標を絞り込み、統計情報や地理情報を収集してデータベース化。これと移住者の位置情報等をもとに移住の誘因となった主要な地域資本を特定。

(2) 移住・定住判断や身体・精神充足への影響を解明

4資本とその連関を説明変数、移住・定住判断や身体・精神充足を応答変数としてアンケート調査と統計解析を実施。

(3) 地域システムデザインの試行

モデリング(機械学習)により未利用資源とそのポテンシャルを特定、異なる将来シナリオにおける資源フローを可視化。

<将来展望>

- ・将来シナリオの地域内経済循環評価(地域内乗数係数3等の応用)
- ・ハーバード大主導の国際GeoDesign研究国際サイトに登録し、海外の中山間地域との相互学習を推進